

## ■ 3つの「柱」から 5つの「強調点」へ

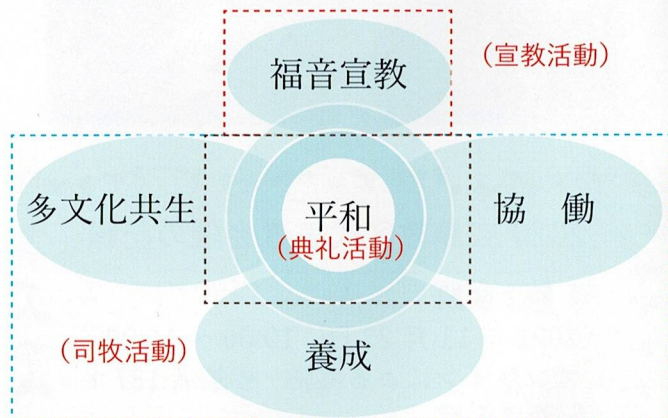
2020 教区代表者会議の分科会テーマを活かし、  
教区の活動の重要ポイントという意味で、5つの  
強調点に変更します。

2006 年 司教教書

3つの「柱」  
平和  
きょうどう  
養成



2022 年 司教教書  
5つの「強調点」



「平和」は「心臓」、「福音宣教」は「頭とくちばし」、  
「多文化共生」「協働」は「両翼」、「養成」は「尾翼」、  
に相当する一羽のハトのイメージです。

## ■ 「10のテーマ・30のチャレンジ」

「10のテーマ・30のチャレンジ」は2020教区代表者  
会議の提言内容の要約であり、ノルマではありません。  
今後は「シノドス対応調整チーム」が、この要約を指  
標として識別を行ない、立案して行く役割を担います。  
(パンフレット7頁)

〔福音宣教〕

1. 福音の喜びの源泉に立ち帰ろう。
  - ① 主日のミサへの参加と、個人の祈りや黙想の実践
  - ② 神のことばに親しむ(勉強会、分かち合い、聖書の通読や書き写しの推進)
  - ③ 日々の祈り、広島教区の固有の祈り、信者の心得が掲載された冊子の発行
2. 新たな熱意・手段・表現をもって福音を伝えよう。
  - ④ 津和野の証し人の列聖推進による信教の自由や家庭・共同体の役割の教化
  - ⑤ 情報技術(IT)機能の整備とSNSの活用の推進
  - ⑥ 教区共通の要理書の作成

〔平和〕

3. 信仰に基づく平和の精神を推進しよう。
  - ⑦ 祈りによる平和の精神の浸透
  - ⑧ 高齢者、障がい者、青年、教会から離れている信者への配慮(傾聴と支援)
  - ⑨ 教区の歴史的な文書、平和に関する資料の収集・保存・有効活用(展示)
4. 環境問題といのちの尊厳の取り組みを積極的に進めよう。
  - ⑩ 「持続可能な開発目標」(SDGs)、「ラウダート・シ・ムーブメント」の推進
  - ⑪ 戦争、原爆、核兵器に反対する諸活動の支援
  - ⑫ 差別、偏見、ハラスメントをなくす学びや活動の推進

〔多文化共生〕

5. ともに歩む「あたたかさ」を「形」にしよう。
  - ⑬ 他国籍の人々への支援体制(外国語ミサ、信仰養成、生活支援など)の構築
  - ⑭ 多文化共生に取り組む小教区・地区・教区の担当者をつなぐ情報ネットワークの構築
  - ⑮ 他国籍のグループの諸活動の支援

〔協働〕

6. 協働の精神を深める教会組織のあり方を考えよう。
  - ⑯ 協働体制を活性化(人材、財政、行事を共有)するワーキンググループの設置
  - ⑰ 小教区、地区、教区の各組織の見える化(簡素化)と、情報伝達網の改善
  - ⑱ 会議のオンライン化や事務のデジタル化の推進
7. カトリック教育機関、地域社会、他教派・他宗教との連携を深めよう。
  - ⑲ カトリック教育担当チームを設けて協力体制を図る
  - ⑳ 「カリタス広島」の構築による地域社会への奉仕
  - ㉑ 他教派・他宗教の研究機関・活動団体との連携

〔養成〕

8. 青少年の信仰養成に同伴し、それぞれの召命を開花させよう。
  - ㉒ 教区練成会、中ブロ高校生大会、召命学校の充実と連携、青少年情報センターのあり方の検討
  - ㉓ 司祭召命を促進する祈りと活動の推進(「一粒会」の普及、召命黙想会の充実)
  - ㉔ 初聖体後・受堅後の侍者奉仕や教会活動への招き、信仰養成の同伴
9. カテキスタの養成を推進し、その役割を広げよう。
  - ㉕ カテキスタの養成コース、ロレンソ会の周知・充実
  - ㉖ 選任によるカテキスタの奉仕職の導入
  - ㉗ 種々のカトリック教育機関との連携
10. 司祭と信徒の生涯養成を充実させて、ともに歩む教会をめざそう。
  - ㉘ 教区司祭の生涯養成(月修、研修会、黙想会、個人的な学び)の推進
  - ㉙ 大人のための教会学校(ミサ前後の短い学び、巡礼、遠足、発表会の企画)
  - ㉚ 典礼暦に基づく要理の学びの推進(「典礼と要理」のリーフレット作成)

